



今年も市民の皆様と力を合わせて頑張ります

中学校デリバリー弁当給食の改善を!

年、申し込み率が、全市平均で43・7%と下がり続けています。家庭からの弁当、菓子パン、コンビニ弁当と食べるものバラバラでは食育も困難です。全員喫食の給食に見直す



中学校のデリバリー弁当給食が始まって13

文教委員会



藤井とし子(安佐南区)

ことも含めて検討するよう求めました。市は、まずアレルギー対応ができるよう改善し、給食のあり方は慎重に検討する必要がありますと答弁しました。

建設委員会



近松さとこ(中区)

原爆ドームに夜の賑わい? 世界遺産原爆ドームを守れ!

松井市長は「観光と慰霊の両立に踏み出す重要な決断」として、世界遺産登録20周年観光キャンペーン事業(事業費800万円)で、原爆ドーム周辺の樹木にイルミネーション(12月7日〜2月5日)を実施。また、ドリミネーションの一環による「ニンジン」「ウサギ」「雪だるま」の電飾でバッファゾーン内がきらびや

総務委員会



中原ひろみ(南区)

かな光景となつています。広島市は「夜の賑わいづくり」「鎮魂の場にふさわしい明りにした」と説明していますが、原爆ドーム周辺とバッファゾーン内の電飾は「鎮魂と慰霊の場」である世界遺産の価値を下げると指摘し、原爆ドームを観光地化する市の方針の見直しを求めました。

これまで、バッファゾーン内へのマンション建設や、かき船新設など原爆ドームが危機遺産になりかねない事態が続いています。日本共産党市会議員団は3つの常任委員会で質疑し、原爆ドーム本体とバッファゾーンを一体の価値あるゾーンとして守る体制整備と、市独自の保全条例の制定を求めました。

経済観光環境委員会



村上あつこ(東区)

保育園待機児解消をめざせ

広島市の保育園の実際の待機児数は2016年12月で1581人。これに対して市は小規模保育事業を増やすなどで2017年3月までに730人分を増やすとしています。認可保育園を増設するべきですが、それにしても730人分増やすだけでは、待機児

厚生委員会



中森たついち(西区)

福島第二保育園の廃園の撤回を
これほど保育園が足りないのに、市は公立の福島第二保育園を廃園にしようとしています。同保育園の必要性は明らかです。廃園方針を撤回すべきと求めました。

問題の解消はできません。目標そのものを大幅に引き上げる必要があります。
福島第二保育園の廃園の撤回を
これほど保育園が足りないのに、市は公立の福島第二保育園を廃園にしようとしています。同保育園の必要性は明らかです。廃園方針を撤回すべきと求めました。



電飾された原爆ドーム周辺

1月から子ども医療費補助制度が変わります

前進
対象年齢が
広がります

通院で小学3年生まで、入院で中学3年生まで利用できることになりました。対象年齢拡大を求める市民運動と日本共産党市議団の取り組みが実を結んだものです。今後、さらに通院も中学3年生まで広げたいことをめざします。



後退

一部で窓口負担が大幅に増加します

広島市の制度は所得制限がありますが、その枠の中に新たな所得基準を設ける、全国に例のない仕組みが導入されました。新たな所得基準を超える世帯の子どもの窓口負担は、月1回500円だったのを、小学校入学前は1か月最高2000円に、小学生では1か月最高3000円に、全国で最高の額となります。これに対して、市民からも医師会からも強い反対の声があがっています。市議会では、6月、9月、12月議会で見直しの決議案が提出されましたが、賛成少数で否決されました。

おかしいぞ!

報酬へインフレを招き、期末手当を増やす!?

議員と市長をはじめ特別職の期末手当の増額に反対しました。

議員と市長、特別職の手当て増額は、市職員の給与増額にあわせるといいますが、「今までそうしてきたから」「国や県・市町もそうしているから」との理由しか示されず、何も法的な根拠はありません。

もともと、昨年の6月議会で、厳しい財政状況という共通認識のもと、議員と特別職の報酬の5%減額を全会一致で決めています。報酬を減額している最中、なんの根拠も道理もない期末手当の増額は納得できません。